

■ 編 集 委 員

齋藤 一之（委員長）

板橋 明

糸山 進次

菰田 二一

鈴木 洋通

竹内 勤

土田 哲也

中塚 貴志

西村 重敬

禾 秦壽

廣瀬 隆則

間嶋 満

渡辺 修一

（五十音順）

■ 編 集 後 記

どうしたらよい論文を書けるのか？

よい論文とはただ新しいことが書いてあるだけではなく、創造によるartであり、美しいものです。「どうしたらよい小説を書けるのか？」とか「どうしたらよい音楽を作曲できるのか？」と問われて困惑するのと同じで、簡単な方法はありません。と言ってしまっただけではこの文の価値がゼロになってしまうので、実行可能なことを再確認しましょう。

まず「素材」、つぎに「仕上げ」です。ダイヤモンドをよいデザインと高い技術でカットすれば、美しい輝きが得られます。よい原石も加工しなければ輝きませんし、ただの石はいくら磨いても石です。

では、よい原石はどうしたら得られるのでしょうか？答えは「テーマへの強い愛情」と「見つけよう、明らかにしよう、という絶対に諦めない執念」です。トコトン考える、文献も徹底的に集めて読み尽くす、ことが必須です。

仕上げについては数多の指南書¹⁾が出版されています。端的に言えば、「論理」と「明快さ」です（言うは簡単ですが、練習の積み重ねが必要です）。さらに、最終仕上げがあります。これは努力さえすれば誰にでもできます。「誤字misspelling」などを完璧に駆逐することです。また、専門用語がある部分では日本語、ある部分では英語、ある部分では略語、などの不統一も不細工ですから完全に退治しましょう。

当たり前のことが並びました。もちろん「天才的なひらめき」も欲しいところですが、こればかりは望んで得られるものではありません。しかし、当たり前のことは実行できます（しつこいようですが簡単なことではありません）。「進歩がまだ希望であった頃」という本²⁾があります。ベンジャミン・フランクリン(1706-1790)と福澤諭吉(1835-1901)という約100年違う時代に大きく社会を変革した2人の自伝^{3,4)}から、人物を対比して類似点を示した本です。共通点は、偉大な「常識人」と、自らマメに作業をこなしていく「克明な人(器用な人)」です。当たり前のことを強い意志で着実に具体化していった人たちです。

「愛情」と「執念」と「完璧な仕上げ」の果実をどんどん投稿して下さい。

- 1) 木下是雄. 理科系の作文技術, 中公新書624, 中央公論新社, 1981.
- 2) 平川祐弘. 進歩がまだ希望であった頃, 講談社学術文庫910, 講談社, 1990.
- 3) 福澤諭吉 (富田正文校訂), 新訂福翁自伝, 岩波文庫青102-2, 岩波書店, 1978.
- 4) ベンジャミン・フランクリン (松本慎一・西川正身訳), フランクリン自伝, 岩波文庫赤301-1, 岩波書店, 1957.

(渡辺 修一)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/uinfo/jsms/>

第30巻 第3号 通巻110号 (季刊)

編集責任者 齋藤 一之

平成15年6月30日 発行

発行所 埼玉医科大学医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2125 (直通) FAX 049(276)2127 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作 株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741 (代) <http://www.atene.co.jp>